

# 輝き増す 火焰太鼓山車

宇都宮・修復完了、活用を模索

【宇都宮】江戸期に神田祭などと並ぶ盛大な祭礼の一つに数えられた菊水祭を彩り、昨秋に復元された旧新石町(伝馬町と小幡1丁目の一部)の「火焰太鼓山車」の最終修復が完了した。太鼓を支える支柱の漆塗りや飾り金具のめっきなどが施され一層華麗な姿がよみがえった。今後は解体保存される。(飯塚博)

## 漆や金具100年前の姿に

修復は、市民有志でつくる「宮のにぎわい 山車復活プロジェクト」(松山幸雄会長)が募金を募るなどして取り組んできた。

昨年10月の菊水祭で約100年ぶりに復活巡行。その後、往時の姿により近づけようと、募金の残金の全額約130万円を、支柱の塗装や金具のめっき、山車の取り回しを楽にする操舵キヤスターの製作などに充

て、作業を進めてきた。支柱の朱の漆が鮮やかで、同じ朱塗りで復元した高欄と合い、金具が輝きを増した。山車や屋台が最大80基ほど繰り出した祭りの主役の一つとしての華やかさを取り戻した。

山車は1、2両日、大通りで開催されたふるさと宮まつりで披露された。同プロジェクト事務局の松山昌彦さん(45)は「人



宮まつりで披露された火焰太鼓山車

出の多い宮まつりに出せたことで、より多くの人に知ってもらい伝統文化の伝承に一役買えたかと思う」と話した。

山車は解体保存されるが、松山さんは「高さが約9メートルあり難しいだろうが、組んだ状態で保存できれば観光資源になる」と、今後の活用方法に思いを巡らせている。